

令和２年度第１回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

１ 開催日時

令和２年９月２９日（火） １０時から１２時

２ 開催場所

中区地域福祉センター 大会議室１・２〔広島市中区大手町四丁目 １・１ 大手町平和ビル５階〕

３ 出席者

懇談会構成員

団 体 名 ・ 役 職	氏 名
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩【座長】
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
広島市立大学広島平和研究所 所長	大芝 亮
広島大学平和センター 准教授	ファン・デル・ドゥー ース 瑠璃
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	高田 義治
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	村上 慎一郎
広島市経済観光局観光政策部 部長	末政 直美

（計１０名、欠席なし）

事務局

広島市経済観光局観光政策部 観光プロモーション担当課長、課長補佐、主事 （計３名）

４ 議題

- （１）これまでの経緯
- （２）令和２年度上半期に実施した取組について
- （３）令和２年度下半期に実施を予定している取組について

５ 公開・非公開の別

公開

６ 傍聴人の人数

１名

７ 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会（令和２年度第１回）

８ 発言の要旨

(原田座長)

今、事務局から配布資料の説明があったが、新しい委員の方もいるので補足しておきたい。資料のうちA3の紙には、ピースツーリズム推進懇談会の会議で取りまとめた内容を整理しており、その中では、平和と観光をどのような形で結びつけるのかが一番の課題であった。

当初、経済観光局からこの懇談会の主な目的はスマートフォンによる案内ルートを作ることであったように思う。しかし、結論として、①国内外に対し平和の発信機能をより強化すること、②国内外から多くの来訪者を迎えるにあたって環境整備が必要であること、③来訪者を迎えるに当たって、市民が積極的に関わっていく方策を検討すること、④それが結果的には広島市全体の活性化につながることを考えた。

別紙の裏は、具体的にどのような点に留意して進めていけばよいのか、それを、五つの事項としてあげている。①平和と文化の一体的な推進によるヒロシマの発信、②平和記念資料館と関連する施設や被爆遺構などの発信力の強化、③市民・民間等との協働体制の構築、④拠点施設の確保など、⑤事業推進のために関係機関との調整やチェック機能を果たす仕組みをどう構築していくのか、という点である。初年度にとりまとめたものを、市長へ報告し、市長からも「この方針に沿って進めてほしい」との言葉を頂いた。

そうした意味で、来訪者への情報発信、来訪者を迎えるに当たっての環境づくり、そして迎える市民の積極的な関与についての進捗を事務局より説明した。報告があったように、市民の積極的な関与以降については検討がなされていない。本日も活発に議論いただきたい。

このほか、手元に他の資料を添付しているので、説明させていただく。

- ①広島大学の旧理学部1号館の活用
- ②被服支廠の強度の再調査
- ③再調査、割れる見解
- ④中国軍管区司令部跡（旧防空作戦室）の保存検討
- ⑤平和記念資料館と地域との連帯

本川小学校には被爆当時の校舎と資料がありながら、十分に活用できていないようであったが、地域やPTAの皆さんと連携することによって、土・日曜日の開館が可能となってより多くの情報が集まってくるようになったので、被爆建造物の保存のよいモデルとして活用していきたい。

- ⑥本川小学校の校長便り

本川小学校で生き残った児童、居森さんの展示についてのいきさつなどを紹介している。

これらをふまえて議論をいただきたい。まず、今年度の上半期の事業実績について、意見や質問があったらお願いしたい。

(前田委員)

これまでの取組というようにまとめているが、これすべて、ピースツーリズムの関係の方が仲立ちをして、積極的にかかわって実施したという理解でよいのか。

(事務局)

P 3 ページの「これまでの経緯」は、観光政策部が中心となり実施した取組を紹介している。

(瑠璃委員)

8月のWEBサイトのアクセス数が増えた後に、9月にアクセス数が2,000件に落ちている点が非常に残念。理由や背景について情報はあろうか。これを、例えば持続可能な形にするために、一旦アクセスした人が、何度もアクセスして新たな情報を得たり、意見を発信したりできるような、サイト上の情報交換を自分事としてとらえられるような仕掛けがあったらよいと思う。8月に8,000件まで増えたというのは、情報を発信したというだけだったのか。

もう一つは、前年の7月8月も各月アクセス数が4,000件と増えているきっかけとなったものは、何かあるか。

(事務局)

先ほど、今年度の8月のアクセス数の増加要因としては、テレビでピースツーリズムについての番組が放送されたため、その視聴者がインターネットで検索をして、アクセスしたものと考えている。もう一点は、インターネット上でバナーを掲載するインターネットの広告を実施し、バナーをクリックした方がWEBサイトに訪れるという形でアクセス数の向上を図ったもので、約3,000件強のアクセスがあった。いずれもアクセスをした数を集計しているので、アクセスした方が、その次のアクションを起こしたかどうかというのは、実はわからないというのが現状。なかなか今のその集計システムでは、そういった訪れた人の反応については、わからないというのが実情だが、ご意見を参考にして、今後検討したい。

続いて、昨年度の7月の下旬から8月の中旬にかけてアクセス数が増加した理由だが、こちらもインターネット広告を実施したものであり、アクセスが約3,300件あった。

(平尾委員)

(2) 上半期に実施した取組について、前田委員と瑠璃委員がおっしゃった点と重複しているところではあるが、一つは、ここに挙がっている取組が全部ピースツーリズム、この懇談会と関連しているという点について、例えばレストハウスのリニューアルオープンということが、この懇談会でどうつながりがあるのかと思った。様々な取組があがっているが、平和に関する観光と関連している取組というように理解すれば、何となくつながる部分はわかるが、ピースツーリズム懇談会の成果とちょっと違うという気もした。

もう一つは、瑠璃委員もおっしゃったホームページの件だが、ページビュー数が、17万7,341件、アクセス数が月に約2,000件、この数字が多いか少ないかは、なかなか評価しにくい。企業のページであれば、これを通していくら物が売れたとか、観光であれば何人来たというところが成果の指標になるのかと思うが、実際にこの数字がよかったか、悪かったか、ということの評価するためには、このページを通して何をしたかったのかということを設定しておかないと、その辺の評価はしにくい

と思う。最終目標として、ウェブサイトは何のために開設しているのかということを、明確にしておけば、評価できるという気がする。

（古谷委員）

平和記念公園の中のレストハウス改修について、プレオープンに招待を頂いたが、本当にきちんと整えられていること、そして、若い人がいろんな形でかかわって運営している点について、とてもよかったと思っている。

また、広島大学旧理学部 1 号館に関する企画展の開催についての具体的な内容を聞いて安心した。私は、50 年前広島大学の学生だったが、理学部の建物が手をかけられることなく、ガラスは割れて、草も生え放題という状態に心を痛めていた。新聞で活用の記事を読んだが、それについてもなかなか動きが見えなかったところだったので、11 月に企画展が開催されると聞いてとても嬉しく思った。

それから、市立大学平和インターンシップのところで、動画を紹介されていたが、これはどういうところをクリックすると、たどり着けるのか。取組はとてもいいと思うが、コンセプトは何なのか、今のメッセージだけでは分かりにくいと思った。

（事務局）

広島市立大学の平和インターンシップで作成した動画は、広島市立大学のホームページのトップページで紹介している。

（大芝委員）

平和インターンシップの動画について補足すると、公開する際に著作権の問題があり、現在は大学のホームページで紹介しているという形をとっている。知らないとアクセスできないという課題もあるので、今後検討していきたいと考えている。

昨年までのピースツーリズムの取組について、平成 29 年度のとりまとめで 4 ルート 6 コースを提案、設置されたということだが、その後何年か経っているので、どこがよかった、修正が必要かなどという議論というのが既になされていれば、そういった点も教えていただきたい。

また、極めて技術的なところだが、こういうルートが設定されているところは、どれくらい Wi-Fi が利用できる状況になっているのか。電話回線の方でつながると思うが、恐らくまだ Wi-Fi を使う旅行者も多いと思う。

（事務局）

ピースツーリズムの WEB サイトでは、4 ルート 6 コースについての情報発信をしている。しかし、実際に、利用している方の件数をどのようにとるかということを、現在研究をしているところであり、そちらについてはデータが取れ次第、共有したい。

Wi-Fi については、広島市では、ひろしまフリーWi-Fi という公衆無線のアクセスポイントを設置している。こちらの方は、ちょっと件数については、今、正確には回答できないが、市内の主要な施設、例えば、原爆ドームにも、その Wi-Fi の接続ポイントがある。

(渡部委員)

上半期に関しては、2点ある。まず、WEBサイトについて。今年は被爆75年だった。コロナ禍にあって、どうやって広島の情報を提供できるのかということで、私達はかなり積極的にホームページやYouTubeに情報をアップするなど、情報発信に取り組んだ。ピースツーリズムのWEBサイトの数字をどう評価するかということだが、テレビの効果もあったと思うが、今年は被爆75年の8月6日だったから、色々な人が広島について知りたいと思って、アクセスしてきたと思う。その上で、この数字はそれに応えうる情報を、ピースツーリズムのサイトで提供できたかを、考えなくてはいけない。

そう考えると、これはやっぱり十分応えられていないのではないかと私は思う。そして、その時にピースツーリズムのサイトの中に、きちんとピース（平和）を発信する、その結果としてツーリズムであるということが必要である。平尾委員が指摘されたように、WEBサイトを通して何をしたいのか、その目的をきちんと議論して、みんなで検討する必要があるのではないかと思った。

また、いろんな人たちが工夫をして、非常に多くの方が平和文化を作っており、多くの取組や個々の活動がある。市立大学についてもそうだと思う。例えば、ピースツーリズムのWEBサイトにリンクが貼ってあれば、わざわざ市立大学のHPに行かなくても見ることができる。一つの窓口から色々なところに行けるという形を作って、ピースをきちんと発信していくことが大事だと思った。

もう一点、修学旅行について。コロナ禍で多くの修学旅行生が広島へ来ることができない現状である。修学旅行を取りやめた生徒に対して、バーチャルやオンラインで体験できる情報を積極的に提供して、その地で学んでもらうということができたのではないかと。それに対しては、ちょっと足りなかったのではないかと、という気がする。来る予定にしていた修学旅行生に対して、残念ではない。

そしてもう一つ、是非、お願いしたいことがある。修学旅行で平和記念資料館を見る時間の設定が短すぎる。修学旅行で訪問する際に、今の資料館はゆっくりとみて、じっくりと考えてほしい。旅行の日程を組む際に、時間をとるようにしてほしい。また、本川小学校の平和資料館を含めたルート の提案し、更に事前学習の提案を、是非、村上委員のところで進めてほしい。今は映像もあれば、いいものが色々あるので、それを見てから修学旅行生に、広島を訪れてほしい。経済的な支援も必要かと思うが、修学旅行の前に学習する資料の支援などもやってもらいたい。そして、修学旅行生が広島に来て、何を考え、何を感じたといった感想なども是非共有してもらいたい。

本川小学校の平和資料館の平日におけるスタッフの常駐について、素晴らしいと思ったが、8月末で終わっていて、すごく残念である。あそこは本当にいい場所なので、スタッフが常駐して地域の人とともに、資料館の運営に関わっていただける、そういう体制ができるといいのではないかとと思う。

(高田委員)

旅行全般についてということで、コロナ禍で環境が変わりかなり厳しいという状況となっている。まずどれだけの方にピースツーリズムを知ってもらえているか、そこを浸透させていくことが必要なのかなと思う。

また、JATAとしてどのような取組をしていったらいいのかを検討している。広島県内に旅行会社が沢山あるが、若手の職員を含めて、広島のことをよく知らないという社員も結構いる。マイクロツーリズムで、まずは近場の旅行をと言われているが、やはり地元を知ることから始めていかないと、人に伝えられないのではないかと考えている。ピースツーリズムも含めてそうだと思う。

旅行会社のそういう若手の社員を招待して、ピースツーリズムに実際に参加してもらって研修視察ツアーを企画しようと、今、動いている。企画する上でどのような内容にしていったらいいのかという部分、先ほどダークツーリズムと一緒にではないという説明もあったが、広島市にとらわれず、他の隣の市や町との連携も必要なのではないかと考えている。例えば、竹原の太田野島や、呉の施設なども取り入れて、一つの一連の観光ルートを組み立てることもできる。徒歩や自転車で動く方も多しと考えるが、旅行会社の視点から考えると、東京から新幹線で広島駅、または飛行機を利用する場合は羽田空港から広島空港、そこを起点に動くとなると、やっぱり貸切バスとなる。貸切バス業界としても大変厳しいということもあるので、貸切バスを利用するツアーを考えている。遠方へも行ける貸切バスの利点を逆手にとって、竹原や呉と広島が連携したものをツアーとして企画して、それが商品化できないかということ、今、模索している。その研修旅行を実施して、参加者からの意見やアンケートを確認した中で、次の企画につなげられるような、そういうものができないか検討している。今後、広島市とも協力しながら、是非実施に向けて動いていきたいと思っている。

情報発信については、こちらから他県の方々に発信して、まず知ってもらうという部分、そして広島に来ていただいた方から発信していただくという部分があると思う。もう一つ、全国的な部分でというところえ方での提案だが、京都などでよくやられている「ブラザー&シスター」という制度などもある。修学旅行などで若いガイドさんが案内するというもので、年が近いと相手に伝わりやすく、学生達もガイドさんに友達感覚で聞くことができるという利点がある。例えば、修学旅行生の案内を大学生や高校生など平和学習をした学生が、ガイド役となって平和関連施設を案内するというものを組み立てていけば、全国に発信できる方法だと思う。それが全国的にも広がっていけば、若い人への平和学習の継承につながっていくと思う。ピースツーリズムは、長く続いていかなければいけないと考えているので、是非そういった、違う観点からの取組をして県外へ、海外へ発信していくような仕組みを考えていきたい。

(村上委員)

何点かあるが、最初に事務局への質問と、そして市民局国際平和推進部の事業について補足したい。

先ほどWEBサイトの件で質問もあったが、正直この1,300件という数字が決して多いとは言えないと思う。広島市の観光客数が1,700万人、平和記念資料館の入場者数が170万人と言われている中で、もうちょっとあってもいいのではないかなと思う。リピーターが大事だと思うが、一度アクセスして終わりではなく、こちらからアプローチするような仕掛けが必要なのではないかなと思う。ただ検

索されて、見てもらうのを待つのではなく、何かSEO対策のように、検索されやすくなるような工夫などはしているのか。メルマガなどもあれば、結構アクセス伸びると思うが、そういった発信部分について、工夫はしているのか。

ジャーナリスト研修について、地方の記者さんが今年は6社来られていたが、戻って各地方紙に記事を作成してもらうというものだが、その中でピースツーリズムを取り上げた記事はあったのか。

(事務局)

各地方紙の記事に載ったという報告は受けていない。また、WEBサイトのアクセス数については、確かに多くないと考えている。今後、こちらから発信していくためのアプローチなどが必要だと考えている。

もう一点補足すると、先ほど紹介したインターネット広告の他に、リーフレットにQRコードを設置して、そこからもホームページにアクセスできるように工夫している。その他、この3月から実施している、緑化フェア「はなのわ」の会場にピースツーリズム紹介する大きなパネルを設置して、そこにQRコードを載せるなど、アクセス数の増加に努めてきた。ただ、3月以降コロナの影響により、こういった紙媒体やパネルからのアクセスが、多くを見込めなかった。

(村上委員)

ここに挙げてある事業について、ピースツーリズムとどれだけリンクしているのかがよく分からない。例えば、旧中島地区被爆遺構の仮展示を実施したが、この展示会場でピースツーリズムを紹介するパンフレットを設置するなど、少し発想を転換して、工夫次第でこれからピースツーリズムを定着させていくために使えるのではないか。平和推進課の被爆体験継承担当と、日ごろから連絡を取り合って、連携していただければと思う。

渡部委員の方からお話しがあった、修学旅行の支援などバーチャルでどの程度行っているのかという点について、平和記念資料館の取組は非常に遅れているところであり、もっともなご指摘だと思う。コロナによって、その部分が遅れているということを職員が認識しており、補正予算を組んで、被爆証言の多言語化に取り組んでいる。これまで20本しかできていなかったが、このペースを上げてどんどん作っていかうとしており、オンラインでの被爆証言などもやっていきたいと考えている。

その他、平和記念資料館（入館制限）のオンラインによる事前受付システムの導入についての記載があるが、これがピースツーリズムの資料の中に並べてあると若干違和感を覚える。これはコロナがあったためやらざるを得ないものだった。これについて、6月1日に平和記念資料館を再開し、当初30分に100人の入館制限だったが、それを7月から150人に拡大した。その中でJATAさん等から「修学旅行生が入れない」という声を聞いた。最初、私どもにはそういった情報がなかったので、色々と検討してこれぐらいの入館制限なら大丈夫だろう、という感覚だった。ただ、旅行会社あるいは、学校の方から、そういった声を聞いて、そこでコミュニケーションできて、もう少し時間を延長しよう、という話になった。やはり、日ごろから、こういう場を通して、色々な方々と連携していくというのが大事

なのではないのかなと思った。

（末政委員）

色々なお話があったので、特に申し上げることはないのだが、観光という視点で考えて、観光で外から来て貰うという視点から考えると、「旅前」の行ってみようと思ってもらうこと、「旅中」で広島に来た際にどう時間を使うかという中でどうやったらピースツーリズムを使ってもらえるか、「旅後」にどう発信してもらえるか、の3つがあるかと思う。その中で、まず注目してもらおうというところに、このWEBサイトがあると思うが、このアクセス数を見るとなかなか苦戦していると思う。私も含め、事務局はどのような工夫がよいのか頭を悩ませている。来られない方へ発信する工夫、そして、また来てもらうための工夫についても、是非お知恵を頂きながら、今後取り組んでいきたい。

また、村上委員が言われた市役所内の連携ができているのかという課題も確かにあると思うので、しっかり意識してやっていきたいと思う。

（原田座長）

時間が押していることもあるので、下半期の取組について進めたい。

（古谷委員）

インバウンドのことについて少し補足する。広島は1945年8月6日のことがあり、海外の方にとって、日本は東京、京都、広島というように、広島に対して強烈な印象を持っている方が多い。ただ、多くの旅行日程は、新幹線で10時半頃に到着して、宮島を見てランチを食べて、平和記念公園を見て、18時半ぐらいの新幹線で帰るという流れになっている。1996年に、原爆ドームと厳島神社が世界遺産に登録されてから、広島を訪問する方はどんどん伸びていて、ガイドとしても非常に張り合いがあったが、新型コロナウイルスの影響で、全く来訪者がなくなった。クルーズ船も12月まで中止となり、大変残念である。コロナが収束した暁には、頑張っていきたいと考えている。

ここで、米国ハワイ生まれの被爆者で医師の嘉屋文子さんが紡いだ米国と広島の市民交流の歴史を紹介する展示についても紹介したい。嘉屋さんは1992年に「嘉屋日米交流基金」を設立し、ハワイの奨学生14人に平和研究の機会を提供した。その奨学生の一人と広島大学附属小学校の6年をZoomで繋ぐイベントを実施し、その後8月28日に「平和の誓い」というイベントで市長にも会うことができたが、そもそも子どもたちはなぜハワイに移民がいるのかを知らなかった。それは問題だと思う。

嘉屋さんの遺品（ハワイから日本に持って帰られたもの）を預かっているので、その遺品をどうしたらよいかと悩んでいる。海外への移民者の40%を出したという広島県に、移民に関する資料館がないということは、非常に残念だと思う。これは私の考えだが、被服支廠の一棟にそのような資料館があったらいいと思う。

（瑠璃委員）

意見を頂きたい事項の中に、どのように市民参加を深めていけるかということがあった。これまで観光や継承において、「情報発信」という言葉をよく使ってきたが、情報の受け手の側はどうか。最近の傾向として、市民参画のためには、情報をこちらから発信するだけでなく、興味や疑問を持って答えを探索してもらう環境を作ることが大事だと言われている。これは、平和教育の中でも大切な部分だが、市民に質問を投げかけて、あそこに行ってみようかなと思わせるような、観光者が情報を探索していくようなWEBサイトに発展させるというのも一案かと思う。現行のウェブサイトは、大変豊かな情報を提供しているが、一度読んで満足すると、もう一度アクセスする人が少ないのではないだろうか。

たとえば被爆体験の継承について、NHKの取組などがあったかと思うが、ピースツーリズムのウェブサイトも少し仕組みを変えるだけで、つまり情報探索型の仕掛けがあれば、現在既にある情報をより効果的に活用できるのではないかと思う。

現行のものを全て一新したり、奇をてらう必要はない。今あるものをどう見せるか、という工夫に目を向けたい。広島市立大学でやっている取組、一分間動画の素晴らしさは、全く普段の生活の中にあるものだけを使って、平和のメッセージを発信するということだと思う。若い世代というのは、そのような、何でもないものから、何かを生み出す力を持っていると、学生を見ていて思う。彼らの意見を聞きながら、今あるWEBサイトを探索型にすることもできるのではないか。例えば、小学生には小学生に興味がありそうなものを、適切な言葉使いで紹介する。また、中学生や高校生には自分たちが学んでいる教科と関連付けていけそうなものを、そして、大学生であればそこから探索して集めた情報から、エッセイが書けるか、一分間動画ができるか、そういったものを発表する場を提供するなど、多様な仕組みを考案できればよいと思った。

（市民参加について）併せて、動線も考えたい。本川小学校平和資料館と平和記念資料館をつなげたり、発掘されている被爆遺構や被服支廠だったり民俗資料館をつなぐ動線を作っていく時に、考えたいことがある。特に海外の方にとって、どこで休めるのか、トイレはどこにあるか、また水を飲める場所はどこかなどである。そういった情報が共有されれば、安心して広島の観光をプランできる。30分で終わるツーリズムではなく、じっくり見て回るツーリズムになるのではないかなと思う。

（渡部委員）

最初にこのピースツーリズムの委員になったとき、画期的だと思った。観光と平和を同じプラットフォームで話をして、お互いに持続しながら作っていける、そういう新しい取組だと思った。ただ、残念ながら、少しそれが停滞していたような気がしている。いい取組が始まったけれども、より良いものになるよう常に作っていかなくてはいけない。その中で一番落ちてしまったのは、市民参画・民間との連携だったのではないかな。

先ほど村上委員がおっしゃった多言語化に取り組んでいるところが沢山ある。そういうところとつながれば、すぐに対応できる。観光もそうだと思う、様々なWEBサイトについての実践事例や沢山の知恵がある。だけど、そこと行政がつながっていない。同じ、フラットなところで行政と市民が意見交換をする場がない。だけど連携する際に、ゴールがいると思う。ゴール失くして、同じ土俵でいい議論できないので。それは、やはりピース（平和）だと思う。

先日、国連広報センターで核兵器廃絶連絡協議会の15名の学生がとても良い企画をしていた。そこにジャパネットたかたの高田会長が来られて最後に夢を語った。この方は今、長崎でサッカーのオーナーになられている。「この長崎からサッカーを通して、平和を世界に発信する。サッカーの前に平和がある。」と。さすが、長崎のサッカーだと思った。それを民間でやるのだ、ということをはっきりとおっしゃった。

ミッションがあつて、パッションがあつて、アクションだと思う。ミッションがいると思うが、広島ピースツーリズムのミッションは、やはりピースだし、それを支えてきたのは市民。だが、残念ながら、今の広島市の行政は市民と連携する、市民と歩もうとする姿勢を感じることができない。非常に残念であるが、それが現在のピースツーリズムの停滞の一番大きな原因だと考えている。そういう行政と市民の関係を今こそ見直して、前に向かって進んでいくことが、被爆75年の意義ではないかと思う。

(大芝委員)

少し意見を言わせてもらおうと、改めて広島に住むようになって、色々なところを歩いてみた。原爆ドームと平和記念資料館だけでなく、もう一つ、二つ、行ってほしいと思うが、じゃあどういう形で考えると、やはりストーリーが欲しいと思う。点と点を結んで線にする、そして更に面にすることで、非常に目立つところだけでなく細かいところも見えてほしい。点と点を結ぶようなストーリーが欲しいということで考えてみると、軽薄かもしれないが、例えばアニメの聖地巡礼などが考えられる。そのような形で、一つルートを作ってみるのはどうか。その切り口から興味がある人が歩いてみる、ということにつながるのではないかな。映画やアニメの中で広島を舞台にするものというのが数多くあるので、面白いと思う。被爆の話はどのような切り口にしても出てくるので、平和の話も重ねることができる。アニメの他にカープというのもよいと思う。カープの歴史、市民球場の話などは、復興の話が当然出てくるので、カープの話を楽しみながら、平和についても学ぶことができる。他にも高校野球、甲子園好き向けのトピックやアンデルセンなどのスイーツの話から入っても面白いと思う。これらは新しく作るということにはなるが、何か自分の興味のあることを通して、自然と又は結果として平和についても学んでしまうという形になったらよいと思う。

事例として、長野県の無言館(約130名の戦没画学生の作品の展示を行っている)の取組を紹介したい。無言館のすばらしさは、美術作品として一つ一つの作品が見て楽しいだけでなく、その作品を描いた戦争で亡くなった美術学生達のストーリーを感じることに、より心に迫るものがある。呉でも無言館の作品展示を実施したことがあると聞いている。無言館とのコラボレーションなどもよいかもしれない。また、広島史を考えると、移民というトピックも興味深いと思う。

(原田座長)

次に、皆さんから色々なご意見を頂いたが、私も非常に悩んでいた。コロナでなかなか会合も開くことができなかつたり、色々な動きも鈍くなっていた。その中で、本日初めて懇談会を開催することができた。また、もう一点悩ましいのは、皆さんがここで議論した内容は、一つの課で対応できるものではないことも多い。最初に中国軍管区司令部跡(旧防空作戦室)の話をしたが、これは国が持っており、

管理は市の緑政課が行っている。活用については、平和行政として、文化財行政として、また観光行政としてどうすることがよいのかといった多角的な議論が必要となってくる。その中で、背中を押す役割が事務局、また我々が担っていかなければならないと考えている。今回頂いた意見を踏まえた上で、一歩でも二歩でも進んでいけるようにしたい。

（渡部委員）

慰霊碑については、関係者が管理や清掃を行っていたが、高齢化によって、清掃や保全ができなくなっている。慰霊碑は歴史の中で大切にされてきたものだし、地域の市民、町内会、特に企業市民の皆さんに清掃や保全にも関わってもらえるといいと思う。

まちのにぎわい作りについても議論され、様々な取組があるが、単純ににぎわいだけを求めても、広島では長続きしない。歴史の中から出てきたものとして物語があって、復興の歴史があるので、自分の近くにあるものを受け継ぎ、大切にしていけるその仕組みを作る、ということが大事なのではないか。

持続可能なということで、平和記念公園の中で有料ツアーをやっている団体がある。うちの団体のインターン生と一緒にガイドしてくれないかと誘われて、参加した。この時に非常に大きな学びがインターン生側にあって、みんなワクワクして帰ってきた。新しい学生、世代を巻き込んでアウトプットする場を作る、ということも是非もっと行政としてもできるかと思う。

被爆遺構については、やはり中に入れるようにしてもらいたい。長崎も被爆遺構の中に入れるような取組をしている。実際行ってみて、やはりよかった。リアルな場所にはリアルな力がある。広島城にある中国軍管区司令部跡（旧防空作戦室）、非常に大事な場所だと思う。ここは、人が入って、そこで感じられる場所だと思うので、中に入れるよう、是非よろしく願いたい。

（瑠璃委員）

私たちも学生にもっともっと参加してもらえるように伝えたいと思う。広島大学では、新入生に平和記念資料館などを訪れて学んだことをレポートにまとめてもらう取組がある。そこから発展して、被爆体験継承のインターンシップ養成のような取組につなげていくことも可能ではないかと思った。また、市民参画の継承には、「当事者感」が重要である。その観点から、企業や市民の方が慰霊碑の管理をされているという話があったが、素晴らしいと思う。先日、御幸橋近辺の慰霊碑や被爆遺構のあたりを広島電鉄の社員の方が掃除をされていて、それを見たお母さんと子どもが、被爆遺構の話をしている場面に遭遇した。また、「はだしのゲン」を描いた中沢さんが被爆した神崎小学校では、毎年、慰霊碑の掃除や慰霊祭を開催しているという話も聞いたことがあるが、「自分たちの慰霊碑・被爆遺構」という感覚が、継承の市民参画につながるのだろう。行政として小学校や町内会などに声をかけるということもできるかと思う。

もう一つの取組を紹介すると、国連本部では、毎日沢山の人が見学に訪れており、ヒロシマ・ナガサキの被爆体験と非核運動に関する展示コーナーもある。平和記念資料館では、その国連のガイドさんを対象とした研修をされている。それにピースツーリズムを関係させていけば、情報の横のつながりが生

まれて良いのではないかと。国連を訪れた人が、広島や長崎に関心を持ち、行ってみようかと考える時、いろいろなことを探索できる、自分事として学べる環境を作るきっかけにもなるのではと考えた。

（古谷委員）

ピーターソンひろみさんの活動についてご紹介する。オバマ米大統領の出身校として知られる米国ハワイのプナホウ学園で、日本語教師をしていたピーターソンひろみさんは、原爆被害を扱った中高生用の日本語教科書を出版し、その印税を利用して２００９年から広島平和スカラシップを実施している。引き続き、アメリカ人の教員と学生に広島を訪問する機会を提供したいと相談を受けたが、広島側で受入先がなくて困っている。

（平尾委員）

ご意見を頂きたい事項の②というところで、このようなことをする人材がそもそも育成されていかなければならないという原点に立つと、ピースツーリズムの裏側の機能として、人材育成機能のような、教育と関連して考えていけなければいけないと思う。

ちょっとグッと引いてコメントさせていただきたい。そもそも、今、民間では、個人、企業、ＮＰＯなどでかなり平和に関するツアーが生まれ始めていて、多様化しており、オンラインでのツーリズムが始まったりしている。その中で、「遅いのは私だけ（行政だけ）」というところが若干ある。なのに、市民参加型と言って、なんだかピースツーリズムは「お上」のもので、それにどう市民を参加させるか、というのは、ちょっと視点が違うのではないかなと思う。市民の活動に、どう行政が参画させてもらうか、という視点で考えないといつまでたっても変わらないのではないかと。まちづくりなどでも、「行政がまちを作るもので、『住民参画』」と言いがちであるが、私たち市民が参画するではなく、本来、私たちの暮らしをよくするために行政がどう支えるか、という視点が欠けているのではないかなと思う。

会議全体として、先ほど村上委員が指摘したとおり、ここで挙がっているものが多様化し始めていて、この懇談会でやることが不明確になっていると感じる。今後は絞った方が良いのではないかと、そして絞るとすると、この市民参加の取組をどう作るかというところに収れんさせていった方がよいのではないかなと思う。ソフト、ハード、色々なレベル感のものが出てきているので、議論に時間がいくらあっても足りないのではないかなと思う。

（原田座長）

私の方から提案したいと思っていたのが、まさにそこである。これまでいろんな議論をしてきたが、やっぱり、ご指摘のように、議論の視点が少し弱くなってきたのではないかなと思う。

委員の皆さんから色々な意見があったように、資料で説明した取組が、ピースツーリズムとどういう関係を持っているのかとの指摘があったが、これは、コロナの問題でなかなか動きが取れなかったという悩みがあり、事務局の方では随分いろいろな葛藤があったようだ。

いつまでもコロナと言ってもどうにもならないので、そのことに加えて、今回提案したいのは、市民

の積極的な関与をやるという前提であるのであれば、前にも申し上げたが、市役所職員がどのような形で自らできるのかを考え、そして自らやってみて、市民の皆さんにもお願いするということが必要なのではないか。

時間が押してきているので、その他の点について、簡単に説明するが、広島大学旧理学部1号館の保存については、色々な議論がありながらも足踏み状態であるので、何らかの形で前に進んでもらいたい。また、被服支廠の問題で、非常に難しいのは、国が1棟持っていて、県が3棟持っていることだ。私ども市民の視点からすると、どのような議論がされてきたのかが分からない。12月の県の発表では、1棟のみ外観保存をやって、あとは壊すと。色々な議論はしてきただろうが、どのような議論内容だったのか。文化財的な価値、歴史の重みという建物の価値など、そういったものが十分な議論をされないまま、危険だから壊す、お金がかかるから保存できないと、そういう風な議論で終始したのではないかというきらいがある。配布した新聞記事でもあるように、是非、基本的にどうあるべきかという議論をして、それが結果的に壊すことになれば、それはやむをえないと思う。徹底して、その価値を認め、それをどう残すかという議論から始めないで、いきなり壊すところから議論してきたから、このような結果になってしまったと思う。今回の調査で耐震経費が3分の1くらいに収まるという話もあるが、技術的な面の整理をすませ、所有者である県・国・市でどうあるべきかという議論を進めていくべきである。

今日は、今までの反省という意見を皆さんからいただいたので、そのことを一つの糧にして、よりよいものにしていきたい。そして今後の議論につなげていきたいと思う。沢山のご意見を頂いたが、最後に何かあるか。

(渡部委員)

今後、どれくらいの頻度でピースツーリズム推進懇談会を開催する予定か。

(事務局)

懇談会としては年に2回。今回と年度末に予定している。

(渡部委員)

年に2回では足りないと思う。懇談会の開催は年2回でよいが、それぞれの委員の皆さんは様々なアイデアを持っているので、委員を回って意見を拾い上げて、それを形にしてほしい。また、きちっとした形でなくても構わないので、常に情報を送ってほしい。例えば、レストハウスについても、ほとんど知らないうちに決まっていたというのが、広島市の現状である。

(原田座長)

村上委員が部長に就任してから、非常に前向きな発言をしており、平和記念資料館との連携も極めて順調に進めていると思う。平和記念資料館はピースツーリズムの要となる施設であり、今後も期待している。また、現代美術館が近々の改修工事に入る。しばらくクローズするので、その間に美術館がどうあるべきかなど議論を重ね、市民に身近な施設としての体制づくりにつながってことを願っている。

(前田委員)

ピースツーリズムの考え方の基本ということで、やはりツーリズムというからには来ていただく、広島という現地に来て、広島という空間の中で認識する、感じるということが一番大事だと思っている。今、みんなで議論している、例えばバーチャルな空間での情報提供であるとかというのは、コロナ禍でなかなか来られない状況にあっての対応だと思う。あるいはこれをさらに充実していくことで、現実には人々が訪れることができるようになった際の、情報検索だったり、発信だったり、場合によっては探索であったりということの有効なツールになるのではないかと考えている。やはり最終的に目指すのは、来て、広島を感じてもらおうということが一番大事なことはないかと考えている。

（村上委員）

先ほど、市民参加についての厳しいご指摘があったが、我々、国際平和推進部も市民局に所属しており、市民局が市民のやっている活動を支援する、という認識でいる。これは文化スポーツ部にいた時に、やはり色々な文化活動をしている市民団体がおり、我々として、どうしたらその様々な活動を支えているのかというような考えでやってきた。そういう意味で、座長から文化の経験を活かしてと言葉をいただいたが、そこで一つ申し上げるとすれば、文化活動をしている方も平和に対する意識は、非常に高い方が沢山いらっしゃる。懇談会で取りまとめた「留意すべき事項」にもあるように、やはり平和と文化を一体的な推進ということが、持続可能なピースツーリズムにしていく意味で、大事なことはないかと思う。

ハード整備としてルートはできた、今度はその中身について、文化を中心に進める。文化といっても非常に幅広いが、大芝委員が言われたようにカープ、アニメ、音楽など色々な切り口がある。様々な文化イベントと連携するなど、そういったものができたら、間口の広い取組になっていくのではと思う。また個別の提案については、事務局にしたいと思う。

（原田座長）

大芝委員が発言されたカープとの関係については、実はルートの中には入れている。広島歴史の中でカープを外して考えることはできないので、そういう意味で入れたつもりだが、コース的には不十分などところがあると思っている。広げればいくらかでも広げられると思うし、ご意見にあったアニメのルートなど、今後の課題として何か取り入れることは必要だろうと思う。

是非、今後もまた、そのような意見いただきたい。では、以上で議論を終わる。